第５回　多摩市自治推進委員会　要点記録

日　　時：令和２年８月２０日(木)　１８：３０～２０：３０
場　　所：多摩市役所３階　特別会議室
出席委員：大杉覚委員、小川大介委員、寺田美惠子委員、林久美子委員、古瀬郁子委員
オブザーバ：合同会社ＭｉｃｈｉＬａｂ高野義裕代表
事 務 局：浦野副市長、田島市民自治推進担当部長、古川福祉総務課長、原島健幸まちづくり推進室長
　　秋葉企画調整担当主査、西村企画調整担当主査、水谷福祉総務担当主査、雨宮、田邉
傍 聴 者：２名

議事次第：配付資料「第５回　多摩市自治推進委員会　議事次第」のとおり

１　開会

委 員 長　　第七期多摩市自治推進委員会の第５回目を開催する。
　　まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。
　　事務局より、配布資料の確認を行った

委 員 長　　次に、第４回委員会の要点録の原案について、修正はないか。
　　修正はないようなので、これで確定とする。

２　令和元年度市民参画実績について

委 員 長　　次に、令和元年度市民参画実績についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。
　　事務局より、資料 20 に基づき説明を行った

委 員 長　　今の内容について、質問や意見等はあるか。
　　福祉や防災など、行政分野ごとの傾向がわかるようにして、市民の関心の高まりがわかるよう集計分析をするといいと思う。

事 務 局　　年度ごとに案件のばらつきがあり、分析しにくいものだが、もう少しわかりやすい分析方法を検討する。

委　　員　　パブリックコメントは、内容の公開がされているのか。

事 務 局　　行政資料室でパブリックコメントの内容及び結果を公開している。

３　「(仮称）地域委員会構想」の庁内での検討状況について

委 員 長　　次に、「(仮称）地域委員会構想」の庁内での検討状況についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。
　　事務局より、資料 21 に基づき説明を行った

委 員 長　　今の内容について、質問や意見等はあるか。

副委員長　　地域担当職員のあり方を検討するにあたり、職員も地域との関わり方を学ばなければいけない。生駒市や神戸市では、職務外に報酬を得て地域活動や社会貢献活動に従事する際の基準を定める取り組みがあるが、多摩市でも同様の検討はされているか。

事 務 局　　現時点で検討はされていない。制度として、ボランティア休暇があるが、被災者支援活動や高齢者介護支援活動など、使途がかなり限定されている。

委 員 長　公務とプライベートな活動の中間的な働き方を含め、職員の役割をトータルで考える中で、地域担当職員のあり方を考えてもいいと思う。生駒市と神戸市にヒアリングに行ったことがあるが、地域にも職員にも必要と思えるような、より踏み込んだ制度にしてもいいと感じた。

委　　員　「(仮称) 地域委員会構想」について、「市民にとっても職員にとっても、このようなしくみが必要と思えるような動機づけが必要」という話があったが、実際行政と市民が協働することの必要性をイメージできていない人が多いと思う。職員側では、例えばずっと税務を担当していて地域との関りを実感していない場合などが考えられる。また、市民では、税金を払っているのだから当然生活に関わるサービスを受けられるべきだという考え方の人もいる。このような中で、双方ともに意識改革が必要ではないか。どのように行っていくのか。職員向けの勉強会を行うか。

事 務 局　今までも行政・市民の協働の意識情勢の取り組みは行ってきたが、これから「(仮称) 地域委員会構想」で取り組んでいくことにあわせて内容を更新して取り組んでいく予定である。内部では、幹部の会議や課長級の会議で検討を始めたところである。今後、担当者を対象とするなど職層ごとの職員向け勉強会なども行っていきたい。

委 員 長　高松市では、地域に出ていくことが人材育成だと捉え、若手の職員を地域に出させて研修としている。働き方も含め、全体としてどういう職員を育成していきたいか考えていくべきである。

委　　員　委員会前に行った勉強会の講演者である塩沢さんの活動内容は、何人分ものはたらきである。一般的にはなかなかできることではない。地域で活動を行っていると、どの活動に行ってもだいたい同じ顔触れである。それを若い人が目の当たりにすると、「自分もこんなに多岐多様な活動をしなければならないのか」と思ってしまい、地域活動への参加のハードルが高くなる。そうならないよう、好きなことやできることにのみ、つまみぐい的に参加するという選択肢があった方がいいと思う。また、先人たちが、自分たちがやってきた活動を継続してほしいと思うあまり、負担感が出てしまう側面もある。

委 員 長　言われるとおり、好きなことやできることのみ参加すればいいというのは当然のことだと思う。今後若い人が、まず飛び込んでみる場をどうやってつくっていけるのか、モデル地区で試行することになると思う。地域活動に根性論が持ち込まれ、従来のやり方で前任者の役割を引き継ぐような圧力がかからないようにしなければいけない。

４　モデル事業の進め方について

委 員 長　次に、モデル事業の進め方についてに移る。事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料 22 に基づき説明を行った

副委員長　多摩市若者会議のメンバーでもあり、補足説明する。昨年、多摩市若者会議でグーグルストリートビューの撮影を行い、それまで映像として映っていなかった遊歩道や商店街をグーグルストリートビューとして映せるようになった。諏訪中学区エリア内のそれぞれの地域で、アートを点々と展示してルートをつくり、滞留できるようにしたいという話がでている。グーグルストリートビューでそれらをアーカイブ化したい。街並みにアートがあると面白いと思う。

委 員 長　「多世代・コミュニティ間交流アイデア」とあるが、これを取り組みの核として着実に進めつつ、プラスアルファで新しいアイデアをやってもらいたい。すべてやろうと思っても

できない。また、新しく参画した若者が地域に定着するような取り組みも必要である。

委　　員　以前たまたま見かけたが、取組み事例として、パルテノン多摩の学芸員の方たちによる企画か、５０年前ニュータウンができたときの写真と同じ地点で現在の様子を撮影し、アルバムにしていくようなものがあり、面白いと思った。

若者が定着するために、色々アイデアはあると思うがどのように取り組んでいくか。大学生の参加、若い世代の取り組みは、スパンが短い。地域カルテの作成を行い、どこを目指すのか。一過性でない、継続的な取り組みになるには、その視点を忘れないでもらいたい。

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　地域活動に興味がある人に対しては、情報発信を行い、それを見て参加してもらう。

興味のない人に対しては、自治会と一緒に楽しいイベントなどを行うことで、受け入れられやすいコミュニティであるということを印象づけ、「楽しそうだ」と思ってもらう。

委　　員　取り組むにあたっては、制度設計や計画をきちんと行い、「楽しそう」の中に当初から、目指す方向につなげるための要素として解決すべき課題や達成すべき目標を仕込んでいかないといけないのではないか。

委 員 長　ここで大事な問題として、取り組みを、課題解決型でアプローチするのか、共鳴・共感型でアプローチするのかということがある。どんな取り組みもこの２つのうちどちらかの要素しかないというものではなく、両者が混じったものであることが多い。合同会社 MichiLab は、どちらかというと、共鳴・共感型かと思う。諏訪中学区エリアでこの方法で取り組んでみて、うまくいったか、そうでなければどううまくいかなかったのか、追いたいと思う。挫折してそれを乗り越えていく部分も含めてこのプロセスの分析を行い、次のモデルエリアでどう取り組んでいくかを検討したいと思う。

委 員 長　２～３年のモデル事業では短い。この短い期間で何をできるかを考え取り組むとともに、次の世代につなぐ仕組みをつくらなければいけない。（仮称）地域委員会構想の取り組みは、今やっている自分たちだけでなく、次の世代の人たちに引き継いで実現していくものである。

委　　員　イベントに参加しない人たちをどう引き込んだらいいかと考えてきた。ずっと地域に関わってきたから分かることがある。ちょっとでも参加したいと思えるメニューをなるべく用意して、見えるものを増やしていけたら巻き込んでいけると思う。どんな世代でも、興味を持ってもらえるような何かがあれば、一緒にやっていけると思う。

５　その他

委 員 長　その他、何かあるか。

事 務 局　東寺方小学区エリアで無作為抽出された約 2,800 人を対象に行ったアンケート調査の回答回収状況は、８月 19 日時点で 351 件である。同封した第１回エリアミーティング（東寺方小学区エリア）の申込状況は、８月 19 日時点で 41 件の申込である。

第１回エリアミーティング（東寺方小学区）は、10 月 11 日(日)午前 10 時から開催予定である。

第６回多摩市自治推進委員会は、10 月 22 日(木)18 時 30 分から開催する。また、その前 17 時 15 分から勉強会を開催する。

５　閉会

委 員 長　これで第５回多摩市自治推進委員会を閉会する。